



学校支援地域本部事業がスタートします

できることから始めよう 学校支援

北海道教育委員会

学校支援地域本部事業

地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備



学校支援

協力依頼

市町村実行委員会の設置

1地域あたり: @500千円
(行政関係者、教職員、PTA関係者、地域の代表者、企業関係者
民間団体の関係者等で構成)
・地域コーディネーターの養成
・学校支援ボランティアの養成
・事業の企画立案
・事業評価 等

学校支援地域本部の設置

1地域あたり: @2,257千円

(中学校区に1本部)

地域教育協議会

(学校長、教職員、PTA関係者、公民館館長、自治会等関係者で構成)
・事業の企画立案
・事業評価
・人材バンクの作成 等

地域コーディネーター

(退職教職員、PTA経験者など学校と地域の現状をよく理解している人)

調整

学校支援ボランティア(無償)

【学習支援活動】

各々の授業において、担当教員の補助として支援(教員免許状保持者等)

【部活動指導】

クラブ活動の指導者を支援(スポーツ経験者・文化芸術経験者等)

【環境整備】

校内環境整備の支援(造園業関係者・電気技師等)

【登下校安全確保】

登下校中における通学路の安全指導(保護者、自治会等)

【学校行事の開催等】

学校及び地域等が連携して行う学校行事や合同行事の実施。



下記連携事業を実施する場合は、学校支援ボランティアと協力して実施

主な連携事業

豊かな体験推進事業
キャリア教育実践プロジェクト
理科支援員等配置事業
小学校長期自然体験活動支援プロジェクト
子ども読書応援団推進事業
地域スポーツ人材の活用実践支援事業
地域人材の活用による文化活動支援事業
地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業
「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業 等



学校支援活動に参加する意欲のある地域住民が協力

地域住民

【有資格者】

(例)教員、社会教育主事、司書、学芸員、情報処理技術者、保育士、看護師、栄養士、体育指導委員 等

【様々な仕事・特技を持つ人】

(例)プロアマスポーツ経験者、文化芸術経験者、海外勤務経験者、伝統文化・音楽経験者、企業技術者、造園業、大工、自然体験活動指導者、レクリエーション指導者、調理師、和裁・洋裁、茶道・華道 等

子どもと向き合う時間の拡充

社会教育で学んだ成果を生かす場に

地域教育力の活性化

学校支援地域本部事業 Q & A

Q 組織づくりをどのようにしたらよいですか？

既存組織の活用

地域にはこんな組織が...



- 地域教育力推進協議会
- 青少年健全育成会議
- 学社融合推進会議
- 教育推進会議 など

既存組織を活用し実行委員会を設置する

地域教育協議会と同じ組織でも構わない

Q 学校とどのように関わればよいですか？

学校とのかかわり方

学校支援地域本部 ← 連携 → 学 校

地域教育協議会

- 学校支援活動の企画
- ボランティアの発掘
- 人材バンクの作成
- 事業評価の実施

要望

- こんなことがしてほしい
- コーディネーターとの調整

コーディネーター

派遣

- ボランティアの派遣



Q 地域の人材をどのように発掘すればよいですか？

学校支援ボランティアの発掘方法

地域にはいろいろな人材が...



- 高齢者大学
- 公民館(趣味)サークル
- 建設従事者の会
- 農業・漁業従事者の会
- 体育協会
- 文化協会
- OPTA

地域マンパワーの活用

Q コーディネーターはどんな人がふさわしいですか？

コーディネーター

学校や地域事情に詳しい人が...



- 退職教員
- PTA経験者
- 町内会の役員
- 教育委員会職員
- 教頭 など

調整力と交渉力

Q 学校支援ボランティアを活用してどのようなことができますか？



登下校時の通学路の安全指導



茶道体験の指導



スキー学習の支援



環境整備の支援



学級農園づくりの支援



部活動の指導支援

さくら町の実践例（仮想）

STEP 1 実行委員会（地域教育協議会）の設置

さくら町では「さくら町青少年健全育成協議会」の既存組織を活用して実行委員会を設置
実行委員会は地域教育協議会を兼ねた組織でスタート



- さくら町青少年育成協議会のメンバー
- ・町内会連合会の会長
 - ・建設業協会の会長
 - ・農業協同組合の組合長
 - ・女性団体連絡協議会の会長
 - ・防犯協会の会長
 - ・各小中学校PTAの会長
 - ・各小中学校の校長と教員
 - ・町内ボランティア団体連絡協議会の会長
 - ・事務局(さくら町教育委員会)

教育委員会と連携し学校支援ボランティアの養成講座等を開催します。
どんな支援ができるのかを検討し事業の企画立案をします。
定期的に事業の見直しや反省を行います。
学校支援ボランティアを発掘し人材バンクを作成します。

STEP 2 コーディネーターの人選・人材バンクの作成

コーディネーターは学校や地域事情に詳しい人に依頼
人材バンクは高齢者や退職者等を中心に作成



コーディネーターは
教育委員会の生涯学習
アドバイザー（退職教員）

人材バンクは地域の高齢
者大学や公民館サークル
の人たちを中心に募集



STEP 3 学校・学校支援ボランティアとの調整

さくら町A小学校では餅つき会の行事が・・・
さくら町A中学校では月2回程度のバレーボール部の指導者が・・・

学校は人材バンクを見てコーディネーターへリクエストします。
コーディネーターは人材バンクに登録された学校支援ボランティアの調整を行います。
学校や学校支援ボランティアと打合せを行います。



STEP 4 学校支援ボランティアの派遣

さくら町A小学校とさくら町A中学校に要望どおりの学校支援ボランティアを派遣

学校支援ボランティアを派遣します。
派遣後に学校や学校支援ボランティアと意見交換し反省をします。
活動記録を記載し今後の支援活動に活かします。



餅つき会の指導

期待できる効果

教師が子どもとしっかり向き合う時間の確保
地域のきずなを深め地域の教育力の再生
地域全体で学校教育を支援する体制づくり



部活動の指導

餅つきの道具などの用意を
学校支援ボランティアが行うこ
とで教師の負担が減る
学校支援ボランティアが指導
することで教師はすべての子ど
もに目がいきとどく

学校では

教師の負担軽減
多様な教育活動

月2回、学校支援ボランティ
アが指導することで生徒指導
や職員会議等の時間確保がで
きる
専門的な指導を受けられる
ことで競技経験の無い教師の
負担軽減につながる